

エジプトへ去る

マタイ 2・13-15、19-23

占星術の学者たちが帰って行くと、主の天使が夢でヨセフに現れて言った。

「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。」ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、ヘロデが死ぬまでそこにいた。それは、「わたしは、エジプトからわたしの子を呼び出した」と、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

ヘロデが死ぬと、主の天使がエジプトにいるヨセフに夢で現れて、言った。

「起きて、子供とその母親を連れ、イスラエルの地に行きなさい。この子の命をねらっていた者どもは、死んでしまった。」そこで、ヨセフは起きて、幼子とその母を連れて、イスラエルの地へ帰って来た。しかし、アルケラオが父ヘロデの跡を継いでユダヤを支配していると聞き、そこに行くことを恐れた。ところが、夢でお告げがあったので、ガリラヤ地方に引きこもり、ナザレという町に行って住んだ。「彼はナザレの人と呼ばれる」と、預言者たちを通して言われていたことが実現するためであった。

説教

ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、ヘロデが死ぬまでそこにいた。 マタイ 2:14

夢のお告げを聞いたヨセフは「夜のうちに」あわててエジプトに出発しました。マリアはヨセフからエジプト逃亡の理由を告げられていたと思います。わけも知らされず真夜中に逃げ出すとは思えません。

朗読では省略されている 16 節に「ヘロデは占星術の学者たちにだまされたと知って、大いに怒った。そして、人を送り、学者たちに確かめておいた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人

残らず殺させた」とヨセフのエジプト行きが理由が記されています。

さて、かりにマリアにはなかよしのママ友がいたとします。急な出発とはいえ事がコトですから一言ぐらいヘロデの「赤んぼ殺し」を伝えていたかもしれません。それを知らされたママ友はどうすればいいのでしょうか。マリアといっしょに逃げる、一足遅れて同じように逃げる、信じられない話なのでそのままとどまる、やっぱりあまりにも突然なので固まってしまうのではないのでしょうか。ヘロデの暴挙は実行されおおくの幼子が殺されました。マリアのママ友の子どもも虐殺されたとしたら、彼女も人間ですからヘロデを恨むだけでなくマリアも恨むかもしれません。

夢でお告げがあったので、ガリラヤ地方に引きこもり、ナザレという町に行って住んだ。 マタイ 2:22

ヨセフ一家はエジプトから帰還しますが、ベツレヘムには足を向けずにお告げどおりにナザレに「引きこもり」ます。人情としてベツレヘムには帰れないでしょう。

イエスさまを育てる家族には想像を絶する苦悩があったのだろうと想像できます。同じようにわたしたちのどんな家族にも苦労はつきものです。そしてどんな苦労でも他人には想像ができず、実感することはむずかしいことです。でも神を信じ、わたしたち一人ひとりの中にいる主イエス・キリストにより頼むことができれば苦労、苦悩は乗り越えられることを聖家族、ヨハネ一家は示しています。聖霊のみちびきを信じるところが強められますように。
